

<第4弾> Press Release

クルマを超えて、クルマを楽しむ。
Classic Meets Modern and Future

AUTOMOBILE COUNCIL 2024

緊急企画！！

主催者テーマ展示「In Memory of Marcello Gandini」
去る3月13日逝去 マルチェット・ガンディーニ追悼展

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

去る3月13日（水）に永眠した伝説のカーデザイナー、マルチェット・ガンディーニ（イタリア 享年85歳）。生前の彼の功績を讃え、深く記憶に残すため、“Designed by ガンディーニ”をテーマに据えた主催者展示「In Memory of Marcello Gandini」を急遽行うことにしました。

※当初予定していました主催者テーマ展示「Designed by ピニンファリーナ」は、来年以降の主催者展示に延期します。

マルチェット・ガンディーニ

1938年、奇しくも同じ年に、世界のカーデザインを新時代にリードする3人のデザイナーがイタリアに生まれた。

VW ゴルフやフィアット・パンダで実用車の造形に新しい指針をもたらしたイタルデザインのジョルジェット・ジュジャーロ、クラシックからモダンへピニンファリーナをブレークスルーさせたレオナルド・フィオラヴァンティ、そして、ベルトーネを率いたマルチェット・ガンディーニである。

彼のデザイン最大の特徴は先鋭的であること。ランボルギーニ・ミウラはスーパーカーのデザインを新境地に導いたし、同カウンタックの大胆かつ未来的なウェッジシェイプは新時代のスポーツカーデザインの金字塔と断言できる。ロータス・エスプリはじめ他の多くのスポーツカーに影響を与え、ランボルギーニ自身ミドエンジン・モデルは、今も同じモノフォルムのデザインランゲージを継承し、永遠に錆びない普遍性を証明している。フィアットX1/9、ルノー・ジュベール・サンク、シトロエンBX等アフォードブルな車のデザインでも傑作は多い。



今回のAUTOMOBILE COUNCIL 2024「In Memory of Marcello Gandini」では、マルチェット・ガンディーニの傑作と言われる中から、以下の5台を厳選して展示します。

また、オートモビルカウンシル実行委員会・加藤哲也共同代表が、当緊急企画を紹介するAUTOMOBILE COUNCIL Channel Vol.41 (URL <https://youtu.be/KiH9jgTVcgI>) を、3月21日（木）公開します。

●ランボルギーニ・ミウラ P400 (1968)



ミドシップV12スーパースポーツの端緒を開いたモデル。デビューが1966年のトリノショーだから、いかに歴史に先んじていたかがわかる。ちなみにフェラーリが初のミドエンジン、BBを世に送り出すのはそれから5年後の71年だった。ジャン・パオロ・ダラーラによる横置きV12ミドエンジン方式の設計も前衛なら、それを覆うボディの造形も先鋭。若きマルチェット・ガンディーニを一躍スターダムに押し上げたのがこのミウラのデザインだった。

●ランボルギーニ・カウンタック LP400 (1975)



ルトまで引き継がれているのだから、いかに先見性が高いかがよくわかる。

ミウラが出世作とするなら、ガンディーニの名声を不動にしたのが1974年に市場投入されたカウンタックLP400だ。未来的でシンプルかつ大胆なウェッジシェイプのモノフォルムデザインは、プロトタイプ段階から世界を騒然とさせ、生産型が世に出るや熱狂的な賛辞に変わった。ガンディーニ・デザインの特徴はボディだけでなくサイドウインドー下端さえ前下がりのこと。このフォームランゲージがディアブロ、ムルシエラゴ、アヴェンドール、そして最新のレヴェエ

●ランチア・ストラトスHF ストラダーレ (1975)

奇しくもカウンタックと同じ1974年にデビューしたのがマルチェッロ・ガンディーニのもう1台の代表作、ランチア・ストラトスだ。ウェッジシェイプの基本は変わらなかったが、エンジンは2.4ℓV6をコクピット背後に横向きに搭載。それゆえ全長が3.7mと極めてコンパクトなことが特徴だった。縦に1本、横に2本、円柱を組み立てたような造形が生産型ストラトスの魅力。ラリー界を席巻することを目的に生まれた車ならではの、好戦的魅力が際立つ1台だ。



●ディーノ308gt4 (1974)

ディーノV6に代わって開発された3ℓV8をミッドシップするにもかかわらず、4シーターとして仕上げられた308gt4のデザインもまたマルチェッロ・ガンディーニ率いるベルトーネの傑作の1台に数えられる。白眉はウェストラインが前傾して、全体として見ればウェッジシェイプなのに、ルーフだけが扁平かつ水平である点だ。308といえばピニンファリーナの2シーターベルリネッタの人気の高いが、ひと足先73年にデビューしたgt4の才気煥発なデザインを好む通も多い。



●アルファ・ロメオ・モンテリオール (1975)



プロGTとしてバランスの良いプロポーションを誇る。

1967年に開催されたモンテリオール万国博覧会に展示するためアルファ・ロメオがまずショーモデルとして製作し、70年に生産が開始されたのがモンテリオールである。ボディデザインを担当したのは当時まだ20代後半だったガンディーニ率いるベルトーネ。Bピラーに穿ったエアスロットやブラインド状に開閉するヘッドライトの周辺処理等が特徴的だが、ティーポ33譲りのV8をフロントに搭載する2+2フラッグシッ

※展示車両は、予告なく変更になる場合があります。

※写真◎標記 [©CG ライブラリー]

----- ◆ -----
一般問合せ AUTOMOBILE COUNCIL 2024 事務局
Tel : 03-6380-1011 e-mail info@automobile-council.com
報道関係からの問い合わせ先 AUTOMOBILE COUNCIL 2024 広報事務局
Tel : 090-8940-1683 e-mail press@automobile-council.com